

| | |
|-------|---|
| 議 長 | 休憩前に引き続き、会議を再開いたします。 |
| 議 長 | 質問順位4番 1番議員 三分一淳議員。 |
| 議 長 | 三分一議員。 |
| 三分一議員 | <p>定刻になりましたので、事前通告に従い和木町下水道事業について質問をさせていただきます。</p> <p>行政側で当たり前・常識的なことであるかもしれませんが、当方を含め、町民は簡易な説明では少し不安や疑問点が残っていると思います。</p> <p>そのため町民に知らせる意味を含めて、今回の情報収集の経緯で得た情報やこれまでの定例会・委員会での情報等も質問・回答に含ませて頂きますが、ご理解頂ければと思います。</p> <p>ではまず始めに、質問の背景について説明致します。</p> <p>近日、特に下水道の維持管理が大きな問題となっております。</p> <p>2025年1月28日 埼玉県八潮市では唐突な道路等の陥没で、結果的に一人の命が絶たれてしまいました。</p> <p>この問題はどこの地域でも下水道を建設してから相当年経ち、相似した環境であるため他人事とは捉えることはできず、当町民に限らず全国でも不安を抱えています。そのため、近日国も下水道対策に動いています。</p> <p>参考ですが、ヤフーのアンケート調査でも、「インフラ更新を最優先すべき」という回答があり、特に不安視されていることが示唆されていました。</p> <p>なお、この調査の簡易な説明をいたしますと「インフラ更新に必要な予算の優先度はどう考えますか?」という質問に対して「インフラ更新を優先すべき」、「他の事業とバランスをとるべき」、「インフラ更新は後回しで良い」、「分からない」の4つのいずれかに回答するもので、実施期間は2025年4月30日～5月14日に行われたものです。</p> |

対象者は 9,141 人ですが、このページを見て回答した方、特にインターネットを利用して拝見するような属性に限られるため、統計に基づく世論調査というものにはなりませんでしたが「インフラ更新を最優先すべき」ということが、90.4%という結果でした。

そのような不安の表れかもしれませんが、当町でもよく町民に「下水道は、下水道管は大丈夫か」という声をお聞きします。

これは当方、また他の議員の方に限らず、行政の方においても聞かれる方も多いのではないかと思います。

この町民の「大丈夫か」というのを紐解き推測しますと、個別の案件を除きますと、主に3つの問題に当てはまると思います。

まず「現状の状態 特に危険度」が大丈夫か、という問題。2つめに「今後の下水道改築・修繕計画の修繕事業の計画」が大丈夫か、という問題、3つめに「事業に充てる資金・財源」が大丈夫か、という問題です。

もしかすると他にもあるかもしれませんが、この情報は今の町民の皆が知っておきたい基本情報でもあると思いますので、今回、和木町下水道の3つの問題について、質問させていただきます。和木町の下水道の現状です。和木町では昭和52年西暦では1977年に和木地区の公共下水道が完成し、昭和56年1981年に、瀬田・関ヶ浜地区においても公共下水道が供用開始され、污水管 35km、雨水管 18km、合流管 7km 合計 60kmがある状態です。

そこで、都市建設課長に質問致します。定例会・委員会等で説明してきたとは思いますが、これまで主な改築・修繕履歴を伺います。

議 長

山下都市建設課長。

山下都市
建設課長

修繕履歴をお答えする前に、和木町の下水道事業ですが、供用開始は確か昭和49年だったと思います。ご確認いただければと思います。

これまでの改築履歴についてでございますが、代表的なものを報告させていただきます。管きよの敷設替え工法によるものですけれども、平成29年度から平成31年度にかけて小瀬川河口で実施した大竹庄送幹線の改築事業、平成21年度に県道北中山岩国線カケ地区周辺におきまして汚水圧送幹線の敷設替えを実施しております。

議長 三分一議員。

三分一議員 様々な場所を改築・修繕している事は理解いたしました。ただ、下水道全体の全体距離と改築修繕をした距離、供用を開始してからの年数を考慮すると、和木町ではこれから大きく進めていく必要があると推測できます。

次に危険といわれる箇所の確認です。八潮市では、道路から下水道までの深さが10メートル、その管径4.75mであり、これが大きな事故を誘発したように思えます。

そこで質問します。和木町の埋設深さはどのくらいになりますか。また管径はいくらでしょうか。

議長 山下課長。

山下都市建設課長 はい、和木町の下水道の埋設深さについてでございますけれども、最も下流に位置されます下水道遊園地付近で、深さが2.6mでございます。その下に2.2mの下水道管が敷設されておるものでございます。

議長 三分一議員。

その前のブックのスタンドみたいなのは、もし要らなければ取ってくれませんか。使ってるんですか。

三分一議員 あっ、はい。

議長 いいです。

はい、三分一議員。

三分一議員

はい、調べたところ、各場所・地域の必要水量等が異なるため、あくまで目安ですが分流式水道管の管径 2mの排水管が設計される場合、おおよそ 10 万人程度（影響人口は 24 万人程度）の人口に対応できるものかと思われませんが、なぜ管径 2m以上あるのでしょうか。

議長

山下課長。

山下都市
建設課長

はい、人口が少ない和木町に 2m以上の管きよがあるのはなぜか、ということによろしいですか。

公共下水道につきましては一般的な汚水を取り扱う分流式下水道と汚水だけではなく雨水も流入させる合流式下水道がございます。和木町が下水道を整備した昭和 40 年代につきましては、都市部などを中心に合流式下水道が主流でありまた低い土地の浸水被害も解消できるということで合流式下水道を採用しております。

合流式では雨水も下水道に取り込む事から大口径管での整備が必要な状況となります。

議長

三分一議員。

三分一議員

はい、歴史的経緯を理解いたしました。

またその管径 2m以上の下水道は先程ありましたけども、どのくらいありますか。

議長

山下課長。

山下都市
建設課長

はい、先程もちよっと申しましたけれども、管径が 2m以上の合流管につきましては、町内で約 600mございます。その他雨水のみを流入する雨水管きよ、雨水管きよにつきましては、雨水管きよも合わせますと 1000mでございます。

議長 三分一議員。

三分一議員 はい、先程の回答は、先日配布された資料でこの地図のとおりになります。ここは二号線で、あけぼの橋があるんですが、ここのあけぼの橋からポンプ場への管、で雨水管は二号線から三井石油化学に沿った管ということになります。

瀬田地区では、ここのところになりますけれども、そり橋から神田地区に向けての管ということで承知致しました。歴史の経緯より少し大きなものもあり、楽観視はできませんが、管径や埋設深さ等より、八潮市よりは危険度が低いように感じられるため少し不安が解消致しました。

次に下水道計画についてです。

大きな破損が唐突に発生し、町民の生活に支障が及ぶことから早期に修繕をする場合を除いて、国土交通省より下水道事業の維持管理に関する標準フローが示されていますが、和木町においてもこのフロー通り、調査→実施設計→施行の流れで事業を行っているのでしょうか。また、補助を受ける場合の補助事業の対象範囲についてもお伺いいたします。

議長 山下課長。

山下都市建設課長 はい、一般的な事業を例といたしますけれども、議員のおっしゃるとおりに事前に調査、実施設計を行いまして、その後工事を実施するという流れになっております。大規模な工事の場合などについては実施設計の前に基本設計を行うという場合もございます。

補助事業の対象範囲につきましてですけれども、通常実施設計と、工事が補助対象となります。

議長 三分一議員。

三分一議員 はい、複雑ではありますが、基本的には5年間計画をし、

要望、申請を経て工事発注をするというものでなくては、下水道の改築・修繕において補助金をもらえないものとなってしまうことで理解いたしました。補助対象も実施設計と工事のみが基本ということも分かりましたが、現在の和木町の財政のことを考慮すると、できるだけその補助金をもらい、進めてもらいたいと思います。

次の質問です。もし下水道改築・修繕の工事を早期に進めたいけども進めることができないといったような、支障となる事柄・問題点等があればお伺いします。

議長 山下課長。

山下都市建設課長 はい、下水道事業を進めていく上での問題点ということでございますけれども、やはり事業費の確保ということは大きな問題となりますけれども、コスト以外についても十分な工期、期間を確保するという必要も必要となってまいります。和木町については、場所によっては国や県との事前協議が必要な場合、また雨量が少ない非出水期にしか施工ができないなどの制限もございますし、安全の確保、働き方改革に考慮した発注を求められておりました、当町も今年度から週休2日制も導入しております。

財源が確保されたとしても、事業完了までに相当の期間を要するというのもまあ問題点としては認識しております。

議長 三分一議員。

三分一議員 はい、進めたくても、現実的な問題として進められない条件があることを理解いたしました。

現在の進捗状況をお伺いします。昨年、瀬田及び関ヶ浜地区においてカメラ調査を実施いたしました。今後の調査や計画予定、計画予定のものはありますか。先程あったんですけれどもお伺いします。

議長

山下課長。

山下都市
建設課長

はい、昨年度の瀬田地区と関ヶ浜地区の一部で、カメラ調査を実施したところでございます。管路の状況を把握いたしましたので、この調査結果を元に、工事の方を改築事業の方を進めてまいりたいと思っております。

今後の予定についてでございますけれども、先日の補正予算の時もご説明いたしましたけれども「大規模下水道管路特別重点調査」こちらの方が優先実施となっておりますので、進めてまいりたいと考えております。

議長

三分一議員。

三分一議員

はい、国土交通省の資料によりますと、調査は破損しやすい、破損しやすさ、が高いとこと、社会的影響が高い所、ここの部分で全国の一斉調査の対象管路となっておりますとお聞きしております。和木町は、ここの優先実施、ここにあるものとも聞いております。この基準は、1994年以前に設置・敷設されたもので、かつ「内径 2.0m 以上」のものですが、その箇所を重点的に行っていくことということで了承致しました。

なぜこの部分の調査が必要かということになりますますが、この図をご覧ください。国土交通省の令和4年における布設後経年年数区別の管路、管路延長になりますけれども、45年を過ぎると8、21、37件と破損が発生しやすくなる恐れがあります。これは場所、材料や質、素材、大きさ、利用頻度等に違いがあり、個別には違いがあると思うんですけれども、管路が、管路が大きいと、被害と共に社会的影響も大きいことから、その2点を考慮した箇所を重点的に行うことは、安全性からも良いことだと思います。

補正予算にみられましたが、この調査費用の補助金のウエイトは低いため、財政面を考慮する必要があると思っておりますが、その指針に沿って進めて頂ければ、計画に問題ないかと思いません。

次に、下水道修繕の資本面についてです。

将来の全ての改築・修繕をする費用ですが、改訂版和木町公共施設等総合管理計画の22ページより、令和3年(2021年)から2060年までの40年間の下水施設更新費用総額を出されています。この表です。これは近年公営会計に移項されています。費用総額は見直しをされる予定でしょうか。

議 長

山下課長。

山下都市
建設課長

すいません。ちょっと質問をもう一度お願いします。

三分一議員

はい、費用総額は、公共施設等総合管理計画から見直しをされる予定ということによろしいですか。

山下都市
建設課長

はい、その総合管理計画はまあ令和2年か3年に多分策定したものと思われま。これも以前から言っておりますけれども、昨年度下水道事業会計、和木町の下水道会計は、公営企業会計に移行しておりますので、まずは今年度新しい経営戦略の方を策定してまいります。また以降、計画等を策定する予定でございます。

三分一議員

承知いたしました。

議 長

挙手でお願いします。

三分一議員

あっ、すいません。

議 長

三分一議員。

三分一議員

承知いたしました。

近年、変動額がかなり大きいことから、再度精査し公表される公営企業会計を見て、今後議論等をしていきたいと思

ます。

ただ、いずれにしても、短期で行うには現実的不可能な金額がかかると思います。

町民も知っているとは思いますが、この地域に公共下水道が運用された時期は、和木町はとても財政的に余裕があった時期になり、和木・瀬田・関ヶ浜の下水道も早期に完成させました。

そうすると、老朽化も、一度に来てしまいます。もちろん、目安となる耐久年数に併せて、全て整備するというのが一番理想かもしれませんが、現状の財政面では現実的に厳しいものと考えられます。

そこで現状の財政面で、全体としてどのように進めていくか方向性をお伺いします

議長 山下課長。

山下都市建設課長 はい、今後の財政面を考慮した事業計画ということでございますけれども、今後の進め方につきましてはですね、先程も申しましたけれども公共下水道会計、昨年から公営企業会計に移行しております。経営状況や財政状況を把握するためには決算状況の確認が必要であることから、今年度、経営戦略もつくる訳ですけれども、事業の実施にあたりましてはですね、基本的には事業費の平準化、そちらの方を目指してまいりたいと思っております。

議長 三分一議員。

三分一議員 はい。「一度に全てをすること」は確かに理想ではありますが、財政面より、現実的に難しいため、毎年同じくらいの整備費で修繕、改築をしていくということで理解いたしました。これは確かに少しはリスクは負うとは思いますが、このように先程の図なんですけれども、平準化をして行ってもらうことは、結果的に負担等から今後また将来の和木町に寄与するものになると思いますので、その方向性で進んでいただきたいと

思います。

なお先ほど、補助金の対象の説明については、調査費用は基本的に出ないということで、調査費用は極力低減することが望ましいと考えます。

他地域では、AIと人工衛星を利用した漏水調査をして、調査費を軽減しているところもみられます。この調査は、人工衛星の発する電磁波とその反射波を用い、AIで分析することにより、漏水箇所を特定していく・しやすくしていくものです。これにより、無造作に調査していたものが、ある程度特定できるということで、経費削減が見込まれるようです。政府も2月20日、デジタル行財政会議で出席した石破首相が、3年で全国に導入できるように取り組む、と述べたことから、今後和木町でもそのようなことも考慮し、進めることも考えていく必要があるのではないかと思います。また現在は、それは上水道が主となっておりますが、近日下水道の利用にも着手され始めているようです。そこで質問です。このような状況がありますが、人工衛星またAI活用による漏水調査等がありますが、その検討はしていますか。

議長 山下課長。

山下都市建設課長 まあ、議員のおっしゃいました衛星、AIを活用した漏水調査につきましてはですね、そういった新技術につきましてはですね、詳細の情報をまず現在把握してる状況ではございません。今後も情報収集等に努めてまいりたいと思います。

議長 三分一議員。

三分一議員 はい、上水、下水等の様子が分かるようになり、かつ調査費用の削減できるのであれば、とても良いものかと思います。

削減においても、他市町村では、デジタル田園都市国家構想交付金を利用したり、他市町村と連携することで安価にしているようですので、その辺りも考慮頂ければと思います。

しかし、この欠点として日本ではまだ試用段階と言えるかも知れませんが、的中率はまだ3割程度ということになっております。その的中率の向上を注視すると共に、他の事柄についてもしっかりと考慮し、検討頂ければと思います。

終わりに、和木町でも生活に欠かせない下水道の老朽化が進み、改築・修繕を欠かせない時期になってきました。

事故等の不慮なものをできるだけ防ぎたいということは誰でも一緒ではありますが、そこにどれだけの予算をつぎ込むかというのは、個人個人感覚が違い、答えのない問題かと思えます。

今回の一般質問で、おおよその状態と危険性、計画、財政の方向性を理解した上で、今後無駄なものに使う費用はできるだけ削減し、優先的に下水道事業の方に費やす、もしくは貯めておいてもらいと思います。

また改築・修繕の際には、めまぐるしい時代変化や技術革新にも目を向け最も良好な方法を選択し、かつ長期的視点では費用は平準化するという、さらなる難しさがありますが、和木町のために総合的な視点で進めていって頂ければと思います。

当然、当方また議会も、その手助けになれるよう様々な意見や提案をして経費削減等に努め、より良い町、和木町を創っていきたいと思います。

なお今後も、下水道においては公営企業会計の結果を見ながら、議論・討論をさせて頂きたいと思いますので、宜しくお願いします。以上です。

議 長 再質問がないようですので、以上で三分一淳議員の一般質問を終わります。

議 長 以上で、本日の日程は全て終了いたしました。

議 長 本日はこれで散会したいと思います。ご異議ありませんか。

(「なし」の声あり)

議

長

異議なしと認めます。

議

長

本日はこれで散会いたします。
お疲れさまでした。

閉 会 10時 36分